とよなか市民環境会議 ニュースレター

Toyonaka Citizens Environmental Conference

2000年（平成12年）12月号（通巻第11号）

竹と里山の不思議に感動！

河野先生の説明に耳を傾ける参加者のみなさん

豊中はかつて筍の産地として有名で、１９６０年代までは筍の加工工場もありました。その面影を残して市内には竹林が点在しています。『竹炭の会かぐやんぼー』では、１１月１１日竹と里山の観察会「竹と親しむ～竹の不思議」を、豊中の貴重な緑地帯を代表する島熊山の雑木林で、２０名の参加者で行いました。

山はいま、紅葉と実りで豊かな空気に包まれており、林の間にモウソウチク、メダケ、ネザサといった竹の仲間がすっかり常連顔で里山の風景に溶け込んでいます。江戸時代の中頃、中国から入ってきた竹は、種でも苗でもなく、根で増えていく珍しい植物だという紹介があり、根は谷をくぐって向いの山まで伸びていくという竹の生命力に一同感嘆しました。時に、その強い根の力が、里山の樹木を脅かす存在でもあるとか・・・・。

また、竹と笹の見分け方は筍が成長すると急いで皮を脱ぐものが“竹”の仲間で、皮に包まれたものを“笹”と見分けることも教えていただきました。

観察の途中では、ナンバンギセルの花をみつけて歓声をあげたり、シャシャンボ、ナツハゼ、アキグミといった林に集まる動物たちの大事な食べ物を、ちょっぴりおすそ分けしてもらい、秋満喫の２時間となりました。

＊第3回「竹炭焼きに挑戦」は、１月２７・２８日（土・日）に行います。（桑島）

詳しくは、広報とよなか１月号をご覧ください。

本号のハイライト

P．１　竹と里山の不思議に感動！
P．２　熊野田小学校へ出前環境学習
P．４　各部会・プロジェクトのこれまでの活動
P．６　参加団体の横顔 - 島熊山の雑木林を守る会
P．７　ひと・人・hito - 笠岡美紀さん -

自然・生活両部会が熊野田小学校へ出前環境学習

とよなか市民環境会議に、『環境ひろめ隊ー出前学習』の第１号依頼が来ました！６月号の記事をご覧いただいた熊野田小学校からで、５年生全クラスの児童を対象に、１０月の３日間、出前環境学習を行いました。

自然部会は、校区内の自然観察として、八坂神社、仏眼寺、第十五中のビオトープなどを見学しました。

生活部会は、省エネルギーをテーマにした授業と、自動販売機の電気量調べを行いました。子どもたちにとっても、自分たちの身近なところで、新しい発見、気づきがあった３日間でした。

子どもたちの感想

自然部会のおじさん、おばさんへ

★田んぼは昔多かったということや、田んぼはなぜ放っているかとか、いろいろおしえてくれてありがとうございました。

★田んぼでは、ふだん見れないカエルやアカトンボがいました。十五中のビオトープでは、きれいな花や草があって楽しくてゆかいでした。八坂神社で、静かにすると、小鳥の声が聞こえました。ふだんこんな事はないので、ちょっときれいだなと思いました。また、行ってみたいです。

★八坂神社の気温はとてもすずしくて２７度でした。八坂神社に20mのくすの木がありました。八坂神社はいろんな木の種類がありました。田んぼには、25ｃｍ位のみみずがいてびっくりした。田んぼにはとんぼもいて、つゆ草という花があってそれは食べれると聞いたときびっくりしました。

★仏眼寺に行って、自然の鳥の音を聞いて、自然はとってもやすらぎをくれると思った。どんぐりには２つのしゅるいがあって、ふとってるのやほそいのや、いろいろの形があって、とっても楽しかった。学校の運動場に水をこぼして、水のすいこみ方を見たけど、あまりすいこまなかった。仏眼寺は、すぐにすいこんでいった。

★さいしょは仏眼寺にいきました。いろいろな音をききました。ギギギギー（とり）ピピピー（とり）ウィー（？）次は十五中です。十五中では、ビオトープがありました。そこにはたにし、めだか、そしてブルーギルがいました。びっくりしました。田んぼも行きました。カエルがいっぱいいました。次に八坂神社です。楠の木が２００年もたってはば 1m 30cm ぐらいあるというのでびっくりしました。

生活部会のおじさん、おばさんへ

★自動販売機さがしで、「あんなに電気を使ってもったいないなぁ。エネルギーのむだだなぁ」と思いました。豊中市でも電気を使わなくソーラーパネルで発電して、電気のコンセントをつけずにできる自動販売機をつくればいいのになぁと思いました。

★３分間水を出しっぱなしにしていたら、３７Ｌもたまるんですね。雨の中行ったじどうはんばいきしらべも、意外に楽しかったです。たくさん電気を使っているじどうはんばいきを少しでもへらして、一人一人がかんきょうの事を考えてくれればいいなと思っています。

★私が一番気にとめたのは『リサイクル』のことです。特にビニール袋のリサイクルは地球に良いことがたくさんあり、私もビニール袋リサイクルのために買い物にはマイバッグをもっていこうと思いました。

★自動はんばい機は家１けん分の電気を使っていることがわかりました。省エネをしたら電気の使用量が少なくなるからおしえてもらってよかったです。

★使ったらすてず、またリサイクルして何回も使えばごみにもならないし、木や森をよごさなくてすむ。いろんなことを教えてくれたので自然環境新聞が書けました。

★私は、「自動はんばい機は、２つも３つもあってべんりだなぁ。」と思っていました。けど、この勉強をして自動はんばい機１台にたくさんのエネルギーが使われていて、地球にえいきょうしている事がわかり、私は「もう自動はんばい機は、１つぐらいでいいなぁ～。」と思いました。自動はんばい機だけでなく、私達の使いすぎているエネルギーを、ちょっとでも使いすぎないようにと思いました。

◆出前学習会をご希望の方は、事務局までお問合せください。お待ちしています！

ワーキンググループ学習会「循環法・廃棄物問題」（要約）

今後の廃棄物行政の方向　廃棄物研究財団総括研究主任・小畑嘉雄さん

7月29日、廃棄物研究財団の小畑嘉雄さんを招き、循環型社会形成推進基本法をはじめとした新しい法律と、関連法の大幅改正などに関して今後の廃棄物行政の方向について話を聞きました。

5月の通常国会で成立した循環型社会形成推進基本法は、期待に反して内容は後退し十分なものではありませんでしたが、それまでに改正された廃棄物処理法なども併せ廃棄物行政の根幹部分が大きく変わりつつあります。

一言でいうなら、これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄の社会から循環型社会へ脱皮するため、国が取り組む法制度ができ、私たちも生活を根本から変えるきっかけができたと言えます。

現実から見ると、廃棄物処理場の新設ができず最近5年間で産廃不法投棄は5倍に増えています。日本は資源消費を押さえ、環境負荷をできるだけ低減する循環型社会を求められているのです。

また、法律は優先順位を決め、

第1に発生抑制、ごみを出ないようにする。

第2がリユース、ビール瓶のように繰り返し使用。

第3がリサイクル、素材にもどし再生利用。

第4が燃料として利用。

第5にごみとして処分、ダイオキシンなど有害物質が出ないように適正に処分。――この5つの順位を示しました。これは非常に大きなことです。

さらに、国、地方自治体、事業者、市民の役割分担を決定し、製品の廃棄後も一定の責任を負う拡大生産者責任を決めました。これらは評価すべき点です。併せて国民も製品をなるべく長く使用することが責務とされました。再生品をできるだけ使うことも折り込まれています。

実は今までのリサイクルは、国が仕組みを作り後は市町村まかせでした。昨年秋、厚生省は産業廃棄物と一般廃棄物の最終処分量を10年後に半分にするという目標と法による責務が決まったことで、循環型社会に向けてのスピードが早まると思います。

次に重要なのは他の法改正です。廃棄物処理法はこの10年間に3回も改正を行いながら、産業廃棄物に対して行政が直接関与せず民間任せだったので、制度として破綻していました。産業廃棄物は年間4億トン、一般廃棄物の8倍もあります。

今回の改正は

①産業廃棄物に対する公共の関与、

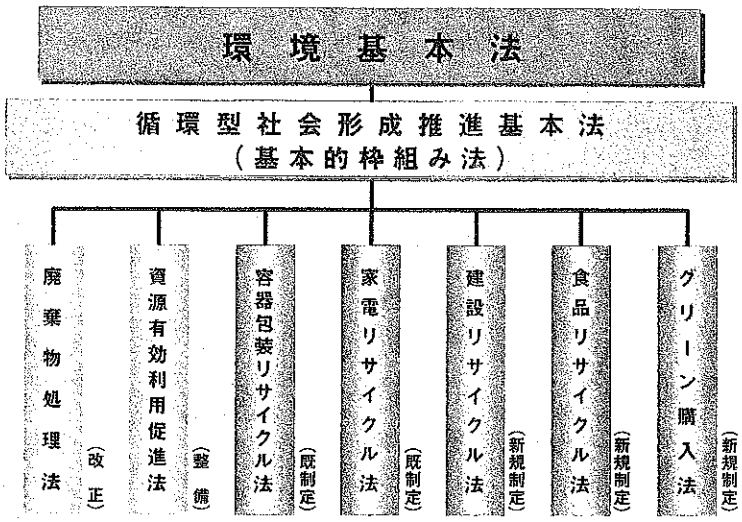
②増大する不法投棄をなくすために排出者責任の一層の強化、

を柱としています。今までは下請け運搬業者だけ罰せられ、本来の排出者には責任追及が及びませんでした。これが変えられたのです。

容器包装リサイクル法の諸問題、来年4月から実施の廃家電製品4品目のリサイクル、さらに建設資材廃棄物のリサイクル、食品リサイクルなど、制度が動き出しても体制が不十分だったり、再検討の課題が残されていたり、いっぱい問題はあります。でも出来上がった循環型社会の枠組みは、これから市民と市町村とでタイアップして活用し、また事業者とも連携して運動を進めるなら、循環型社会の新しい時代はすぐ目の前に見えて来ています。それを本当に動かしていくのは市民であり市町村です。生ごみのコンポスト化についても、事業者とも連携し施設や場所を確保するとか、各地で模索がはじまっています。難しい問題もありますが、循環型社会はすぐ近くに見えてきつつあります。

（文責：奥野）

合わせて廃棄物処理法の改正など5つの個別の法律も整備されました



各部会・プロジェクトのこれまでの活動

自然（ビオトープ）部会　　自然に親しんだ１日

秋の七草調査

昨年から継続している豊中版秋の七草調査が９月25日～10月25日にかけて行われました。実施に先立って、９月23日午後２時より、教育研究所で説明会が開かれました。昨年から継続して調査していただける方を含め53名の参加者があり、説明に続いて各自、分担の地区を決めました。その後、服部緑地で実際に観察を行い、今後の調査に備えました。調査の結果は12月の環境展に展示発表する予定です。昨年との比較が待たれます。

クズ

ワレモコウ

ふれあいウォークで水鳥観察

11月12日、恒例のふれあいウォークが市の南西部を歩くコースで行われました。自然部会では歩く人達に豊中の自然に少しでも目を向けてもらえればと、利倉橋で水鳥観察のバードスコープや水鳥の写真を用意して説明にあたりました。500名以上の参加があり、望遠鏡をのぞいた人達からは驚きの声や質問がありました。　（山口）

その他のおもな事業

- ７月22日　水生生物観察会（箕面）
- ９月23日　鳴く虫観察会（服部緑地）
- 10月　７日　第２回自然学習講座（中央公民館）
- 10月11日　ビオトープ観察会（三田市）
- 11月18日　秋の自然観察会（二ノ切ー豊島高校）

生活（エコライフ）部会　　環境共生集合住宅って、どんなもの？

９月16日、大阪ガス(株)の加茂みどりさんを招き、実験集合住宅「NEXT21」の居住実験とその成果についてのお話をお聞きしました。

緑化テラス、屋上庭園の植栽により、自然回復の兆しが現れ、ウグイス、メジロ、シジュウカラなど18種類もの野鳥が飛来するようになりました。サーモビュアの写真で、緑化による日射の遮断効果、植物からの水分蒸発による温度低減効果があった様子がよくわかりました。

また、回遊性のある街路空間により居住者間のコミュニケーションに役立った事例の他、建物の基本的な構造部分は100年の耐久年数をベースに、個人の居住部分は暮らし方のニーズに合った設計変更が可能な住宅設計になっているそうで、資源の節約にも配慮しているとのことです。

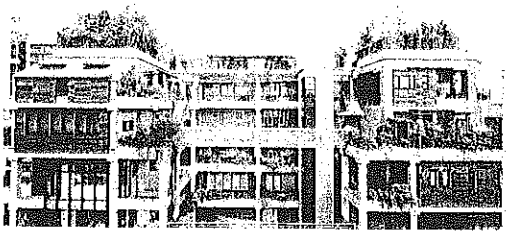
さらに、生ごみ・廃水を住宅内で処理するシステムを採用、下水道への排水水質も著しく向上し、中水の

さらに、生ごみ・廃水を住宅内で処理するシステムを採用、下水道への排水水質も著しく向上し、中水の回収により上水使用量が27%も削減したそうです。あくまで理想の形を求めた実験で、都市住宅のあり方を探る試みであり、経済性はさておき、これからの住まい方を考える上で参考になるお話でした。

この住宅は現在、新しいコンセプトで建て替え改造され、間もなく実験が再開されるとか、機会があれば是非見学したいものです。　（宮田）

未来型実験集合住宅

NEXT21



とよなか市民環境会議の活動支援のため、新たに協賛金をいただきました。（11月末日現在）
協賛団体／豊中南ロータリークラブ、大阪大学生活共同組合　　ありがとうございました。

産業（エコインダストリー）部会　環境展示会見学とエコオフィス運動

8月23日ISO取得企業である、松下産業機器（株）の招待で、枚方で行われた同グループの環境展示会の見学を行いました。

松下電器産業グループがどのような環境理念の基に取り組みを行っているかなどの説明を受けた後、全国のさまざまな工場や製品分野における環境対応を見せていただきました。

製品に対するリサイクルへの対応、鉛を全廃させる取り組み、製造ラインの省エネ、省資源の取り組み、情報公開・企業活動公開のあり方、市民や自治体と一体となった地域における事業活動の展開など、非常に盛りだくさんの展示が行われていました。

参加者からは「さすが！とても時間内に見ることが出来なかった」「是非、来年はもっと多くの人に声をかけて連れてきたい」などという声があがっていました。（冨田）

お願い 11月から、とよなか市民環境会議オリジナルの「エコオフィスチェックリスト」を使って事業所の環境度を調べています。豊中商工会議所の従業員10名以上の事業所360社、豊中青年会議所、産業部会、交通部会参加事業所にお願いしています。回答がまだの所は、早急に回答を送付くださいますようお願いします。

ストップ！アイドリング　交通部会からのお知らせ

今年も、協賛団体の皆さまのおかげで、ストップアイドリングステッカーを印刷しました。協賛を個別企業にもお願いしたことで、市内で緑色のマチカネワニちゃんをよく見かけるようになりました。今年は更にポスターとリーフレットを印刷し、阪急バスや駐車場で掲示しています。

ご希望の方は、事務局までお問合せください。

生ごみ堆肥化実験プロジェクト　緑化奨励賞受賞！

3回目の実験(6～7月)は、原田学校給食センターの協力で、調理くずと残菜を毎日200kg機械に入れて堆肥化しました。センターでは、限られた予算の中でおいしくて栄養のある給食を子ども達にと作られています。けれど、献立によっては残ったおかずの量も多少増えるそうです。現在の子どもを取り巻く食生活の実態やあり様を、生ごみを通して垣間見た気がします。4回目の実験(11～12月)も、原田学校給食センターの調理くずを使用し、現在行われています。

また9月には、桜塚小学校2年生の子どもたちと「土づくり」というテーマで、密閉バケツを使って一緒に土を作りました。生ごみ、雑草、落ち葉など、入れるものによって出る水分量や、においの微妙な違いなど、子どもたちの書いた観察記録を読んで、豊かな感性に触れたように思いました。そして、9・10月と第一中学校の1年生が、ボランティア体験学習でクリーンランドの堆肥や剪定枝の袋詰め作業を手伝ってくれて、彼らの若さと体力をいただきました。

堆肥を使った清谷池公園の花壇は、地域の方々に見守られ、この夏の猛暑にも負けずに、花が咲きつづけ、秋の準備作業の予定日がなかなか立てにくいといったほどで、堆肥の肥料効果に驚きました。

公園の花壇は、今年度「花と緑の街づくりコンクール」（㈳大阪府公園・都市緑化協会主催）において、団体部門で緑化奨励賞をいただきました。また、ボーイスカウトの参加により、10月14日に準備や花壇作りを行い、ボーイスカウトの担当コーナーも出来上がりました。来春には、園芸高校の先生によるデザインのコーナーも予定されています。生ごみの輪から地域の輪への広がりを感じています。（高島）

参加団体の横顔

とよながのあちこちで環境への取組み

「豊中のタヌキを守る、自然を広げる」島熊山の雑木林を守る会

１０年前のことですが名前もない小さな池が島熊山にありました。野鳥がよく水を飲みに来るのも観察でき、心のやすらぎになっていました。そこへ特別養護老人ホーム建設の話が出てきて、「島熊山の雑木林を守る会」の発足へとつながります。老人ホームが近所にできるのが嫌なのではないかと誤解されたこともあったようですが、でもこの取組のおかげで水場が残り、当時はまだ実施されることが少なかった樹木の移植も行われました。

この問題がきっかけで、自然をもっと知ろうと毎月の観察会も始まります。その後、ヘリポート建設が提起されたときは、地元の自治会とも連携が図れ、自然環境と住環境の両方を守る交流がなされています。

最近の活動では、「タヌキ横断注意」の看板設置があります。これは、4.5年前より交通事故に遭うタヌキをしばしば見かけるようになり、市に提案していたことが実現したものです。外国や他市の例も参考にし、夜も光るすてきな看板ができあがりました。これは車の減速の効果以上に、「こんな場所にまだタヌキがいたの」という身近な自然への驚きの効果も大きかったようです。（この看板は、豊島高校東側の三叉路、新御堂筋側、婦人会館前の道路、豊島高校グランド横に設置されています。お近くにお越しの際はぜひご覧ください。）

昨年から、毎月の森の手入れ（竹の間伐）と竹の工作・清掃ハイキングなど、自然観察会だけではなく、共に汗を流して森と親しむ多彩な活動も展開されています。繁殖力の強い竹を切らずに放っておくとすぐに成長し、林が暗くなって島熊山に残っている多くの在来種の樹が滅ぼされてしまうからです。

来年は設立１０周年、その記念として国土緑化推進機構の助成金により「見てふれて感じて　とよなか島熊山の自然」を発行し近くの小学校にも配ろうと、準備をすすめているところです。夢はでっかく「新御堂筋をまたぐ緑道で島熊山から箕面の山や服部緑地までつなぎ、タヌキやキツネの生息地を広げてやりたい―もちろん人も一緒に散策を楽しめるように―」というのが、会の代表である易信子さんのお話でした。

（取材　奥野・東郷）

第２回とよなか環境フォーラム開催―参加者は昨年を上回り大盛況

豊中市の環境に関する平成１１年度の状況と取組みをまとめた「環境報告書」の中間報告について、第２回とよなか環境フォーラムが開かれました。11月14日13時30分から中央公民館集会室で開会。参加者は市長をはじめ、行政の担当者、市会議員、環境審議会委員、市民環境会議の役員と団体代表、ワーキンググループメンバー、そして広報などを見て参加した市民など180人で昨年を上回る大盛況でした。

一色貞輝市長の開会あいさつと環境企画課長より報告書の説明があり、環境審議会委員の久さんが進行を務めながら、別項のように11人のテーマ発表と取組み報告がありました。フロアからも様々な発言を受けましたが、花いっぱい運動を応援する意見が若干と、「学校のトイレットペーパーは再生紙を使っていると聞くが、再生紙だと印象づけるようシールを貼るなど効果的に」など、貴重な意見がありました。

最後に審議会専門委員からも、「指標をよりわかりやすくしたい」と佐川さん、「定量性のないものは議論を」と高田さんが、それぞれまとめの意見が出されました。また、コメンテーターの中口さんは「環境自治体会議に参加している自治体のなかでも環境報告を出すところはあるが、このように市民とともに施策の点検できる市は少ない。３本の指に入る取組みだ」と述べられました。「短い時間で集中した意見交換が

ひと・人・hito　笠岡　美紀さん（豊中市北条町在住）

このコーナーでは、地域や家庭など身近なところで環境に取組んでいる人を紹介しています。第２回はエコライフカレンダー（環境家計簿）モニターとしてデータの提供にご協力いただいている笠岡さんです。

ーエコライフカレンダーをつけるきっかけは？

子どもを通じて、エコライフカレンダーがあることは知っていましたが、もともとごみ問題に関心をもっており、廃棄物減量等推進員をした関係で今年のカレンダーを手に入れる機会があり、つけることになりました。

ー実際につけてみたご感想を

地球温暖化とかCO2とかといわれてもピンときませんが、前の月より使用量を減らそうと、励みになります。ガソリンは係数が高いので、車の使用を控えようとか考えるようになりました。ただ、ごみの計量は難しいですね。

ーごみ問題に関心がおありだそうですが

子ども会の廃品団体回収に関わったのがきっかけで、その後マンションの役員当番にあたったこともあり、分別できていないごみやカラスの被害のことなどを考えるようになりました。

マンションでは玄関ホールにくらしかんからお借りした「ごみの分別に関するパネル」を１カ月間展示したり、ごみ置き場に出されたごみを写真に撮り、目で見て解るように説明をつけて回覧したり、いろいろと取り組みましたが、他の住人の関心は低く、特に他市から転居して来た人には混乱があったようです。

ー環境教育は子どもより大人対象の方が難しいと言いわれています。笠岡さんのお宅ではいかがですか？

確かに子どもの方が意識は高いですね。小学校ではクリーンランドの見学も行くし、おつかいに自分用のお買物袋のスタンプカードを持って行ったり、学習したら即実践しています。大人も子どもも呼びかけることで少しずつですが変わっていくので、嫌がられても言い続けることが大事だと思います。それが環境への貢献につながると思うので。ごみ問題などはマンションの立ち話でも話が尽きない関心のある話題ですから。

ー来年もエコライフカレンダーをつけていただけますか。

今度は昨年と比べることにより、目標を作ってチャレンジしていきたいと思います。

ー本日はお忙しい中どうもありがとうございました。

（文責　東郷）

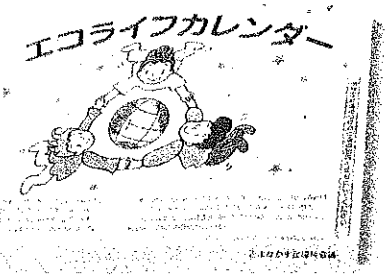
できた。来年はこのフォーラムを市民・事業者の取組みと行政の取組みの２つに分割して開催し、時間をとって意見を出しあうくらいの力量が備わっていると思う」とコーディネーター・久さんからはエールを送っていただいた。

昨年と比べ発言が噛み合って集中できたフォーラムになったという感想が多くの参加者から聞かれました。　（文責・奥野）

募集しています！

生活部会では２００１年版「エコライフカレンダー」モニターを募集しています。カレンダーをつけて、あなたもエネルギーの節約と同時に家計の節約に挑戦してみませんか。ご希望の方は、事務局までお問い合わせください。

２００１年



コーディネーター　審議会委員・近畿大学助教授・久隆浩　**審議会専門委員**　関西環境管理技術センター・佐川直史／大阪市立大学教授・高田直俊　**コメンテーター**　環境自治体研究所長・中口毅博

発表者　「環境報告書」環境企画課長・西川民義　「駅前の交通実験」まちづくり支援課長・高橋多美男／豊中駅前まちづくり協議会・入江修一／阪急バス・上田静男　「ごみ問題」クリーンランド業務管理課長・中村哲郎／廃棄物減量等推進員・坂元真理子／チェーンストア協会・イズミヤ井上健雄　「市民環境会議の取組み」学校ビオトープの経験：十五中学校長・田坂幹治／子ども版アジェンダ：ボーイスカウト・風呂井幸三／堆肥化実験と花いっぱい運動：生ごみ堆肥化実験プロジェクト・高島邦子／マイバッグの取り組み：生活部会・荒井英一／市民・事業者・行政のパートナーシップ：ワーキンググループ座長・奥野享　（敬称略）

Part2

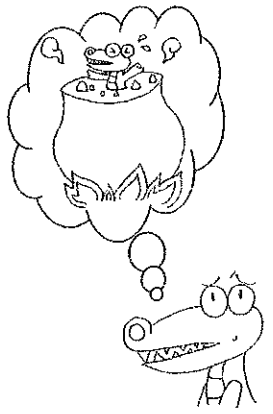
創作民話『地下探検！マチカネワニ』

秘密の汚い川を見てしまったマチカネワニは、「マチカネワニ･･･」「炭焼きにして･･･」という数々の話し声を聞き、すっかりうろがきて、地下室の奥へ逃げてゆくと、そこは行き止まりで「ボイラー室」と書かれていました。

「わわっ、秘密の川を見てしまったのを怒って、私をかまだきにして食ってしまうつもりなんや！」そう思うと、蒸し暑い空気が心なしか醤油の匂いがしてくる気もするのでした。油汗も出てきます。せっぱ詰まったワニはふとお母さんを思い出しました。

お母さんはいつも「ワニは堂々とかまえてるもんや。」と言ってたのに、こんな所で私は醤油だきにされるとは･･･。

「そうだ、その怒っている人達の所へ行って、堂々と事情を話そう。このひどい状況を知らせて、みんなで力を合わせてきれいな川にしようと。



このままでは、海のみんなもマチカネー族も、怒っている人たちも、みんなダメになる･･･。隠すことより、話すことや」

ワニは最後の望みをかけて、声の方に走っていきました。声はだんだん大きく、たくさんの人数になっていきました。次回までこうご期待！　（E三宅）

編集室から

「市民・行政･事業者のパートナーシップ」が合い言葉のようになっている。その実情を知りたいと来訪者しきり。一通りの説明を終えると、財政はどうしているかがよく聞かれる。答えながら、今後のあり方など考えさせられている。しっかりとした組織の展望をつくることが今や急務の課題になってきた。島熊山の雑木林を守る会が『島熊山の自然』の冊子発行を準備中。助成金がもらえたから千部を印刷し近くの学校にだけは無料で配る予定とか。そんなすばらしい事業にはもっと資金が集まるようお手伝いができる市民環境会議でありたい。（Z）

広報チーム　　Z奥野、M荒井、R水谷、E三宅、N冨田、M東郷、W高野

今後のスケジュール

産業部会講演会「ISO14001導入が地球環境を守る！」

- ●日　時　12月13日（水）14：00～16：00
- ●場　所　岡町図書館　3階　集会室
- ●内　容　滋賀県における企業の環境活動
- ●講　師　滋賀県立大学教授・土屋正春さん

自然学習講座

- ●日　時　12月16日（土）13:30～15:30
- ●場　所　中央公民館　1階　集会室
- ●内　容　半世紀前の豊中でみられた小動物
- ●講　師　国立科学博物館名誉研究員・上野俊一さん

身近な環境調べ発表・交流会

- ●日　時　1月20日（土）　時間未定
- ●場　所　くらしかん　3階　イベントホール
- ●内　容　小中学生の発表、市民によるタンポポ、秋の七草調査の発表

自然学習会「自然観察に挑戦！」

- ●日　時　1月27・28日（土・日）
- ●場　所　上野坂2丁目の空地

＊詳しくは事務局までお問合せください。

水鳥観察会

- ●日　時　2月3日（土）13：30～15：30
- ●場　所　猪名川（利倉橋周辺）
- ●講　師　自然部会のみなさん

生活部会見学会

- ●日　時　2月（詳細は未定）

＊広報2月号をご覧ください。

◎次の部会等は定例的に会議を行っています。参加を希望される方は、事務局までお問合せください。

自然部会　毎月第2月曜日　18時～
生活部会　毎月第3土曜日　13時30分～
ﾜｰｷﾝｸﾞｸﾞﾙｰﾌﾟ　毎月第3木曜日　19時～

◎交通部会　1月19日(金)　14時～場所未定
◎産業部会　2月14日(水)　14時～場所未定

発　　行：とよなか市民環境会議
事 務 局：豊中市生活環境部環境企画課内
編集責任：奥 野　享
〒561-8501　大阪府豊中市中桜塚3－1－1
TEL：06(6858)2106　　FAX：06(6842)2802
☆とよなか市民環境会議は、市民・事業者・行政のパートナーシップ組織です